

2016年8月7日

## 福音書からのメッセージ

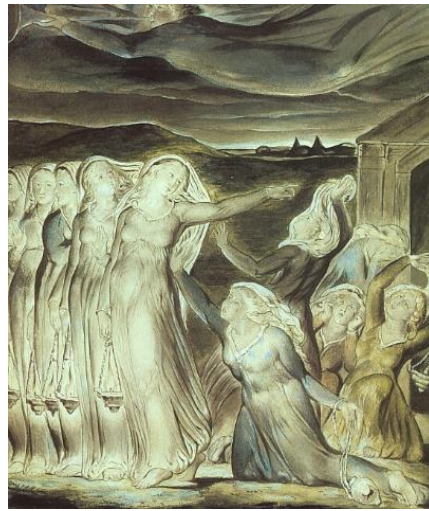
小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。

(ルカによる福音書 12章 32節)

今日の福音書はわたしたちに、「思い悩むな、恐れるな」と伝えます。わたしたちはなぜ思い悩まなくていいのか、どうして恐れる必要がないのか。それが今日の箇所が一番大切なことです。

「あなたがたの父は喜んで神の国をくださる」。これが、イエス様が与えてくださった約束です。神の国をくださる。でもどうでしょうか。正直ピンとこないかもしれません。それは神の国というイメージが、あまりにもわたしたちを取り巻く環境とは、かけ離れているからかもしれません。連日のように、テロや無差別殺人のニュースが舞い込んできます。自然災害や貧困問題など。わたしたちの周りにも、その日必要な食事すらとることができない人が多くいます。その現実を目を向けさせられたときに、わたしたちはなすすべもなく、どうすることもできない自分の姿に気づかされるのではないのでしょうか。でもその現実を直面しているわたしたちに、イエス様は「恐れるな」と言われるのです。それも、「小さな群れよ、恐れるな」と。

小さな群れというのは、普通は周りのすべてが恐ろしく思える人たちです。しかし赤ちゃんの姿を思い起こしたときに、そうとばかりは言えないことに気づきます。赤ちゃんはとても小さく、弱い存在です。しかしその赤ちゃんが、まったく恐れなきときがあります。それはお母さんがそばにいるときです。そのときに赤ちゃんは、自分



が何もできないことを忘れたように安心して、すやすやと眠る。

わたしたちにとって、神の国の安心感というのは、そういう

ことではないでしょうか。わたしたち一人一人は小さなものです。自分の力だけで歩めないのです。だからこそ、いつもそばにいてくれる大きな存在にすべてを委ねましょう。あたたかい胸の中に包まれたときに、わたしたちは神の国、神さまの愛の支配の中に入れられているのです。

赤ちゃんは知っています。自分が泣いたら、お母さんは必ずミルクを作ってくれる。寒かったら毛布を掛けてくれる。恐がったらずっとそばで子守唄を歌ってくれる。必要なものはすべてお母さんが与えてくれることを、赤ちゃんはよく知っているのですね。赤ちゃんってお母さんに抱っこされるとき、手を目いっぱい広げます。あの姿こそ、わたしたちの信仰のお手本なのです。

自分の大切なものにしがみついて窮屈に生きていくのではなく、赤ちゃんのように両手を広げて神さまにすべてを委ねる、そのときにわたしたちは、恐れから解放されて生き生きと歩んでいけるのです。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>